

# 「子どもの生活と学び」研究プロジェクトについて

## ■研究プロジェクトの目的

東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所は、2014年1月に、「子どもの生活と学び」の実態を明らかにする共同研究プロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトは、子どもの生活や学習の状況、保護者の子育ての様子を複数年にわたって調査し、それらが子どもの成長とともに、どのように変化するかを明らかにするものです。これにより、子どもの生活や学習、子育ての現状や課題をとらえ、よりよい教育や子育てのあり方を検討します。

## ■研究プロジェクトの特徴

### 1. 小学1年生から高校3年生の「現在」と「時代変化」をとらえることができる

このプロジェクトでは、小学1年生から高校3年生の子どもとその保護者に対して、毎年継続して調査を実施します。これにより、12学年にわたる子どもの生活や学び、保護者の子育ての実態などの「現在」の様子（1時点の学年による違い）を明らかにできます（図中①）。また、経年比較により、子どもと保護者の「時代変化」をみることができます（図中②）。

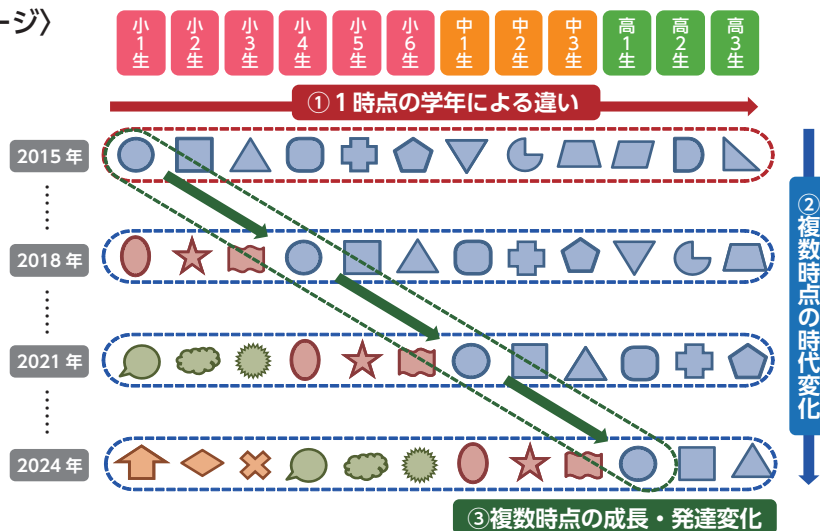
### 2. 親子の「成長・発達」のプロセスをとらえることができる（親子パネルデータ分析）

また、このプロジェクトでは、同じ子どもとその保護者を継続して調査します。これにより、子どもが毎年どのように成長・発達していくのか、また、それによって保護者のかかわりや意識はどのように変化するかといった、親子の「成長・発達」の様子や因果関係を明らかにすることができます（図中③）。

### 3. 子どもの生活と学習にかかわる意識や実態を幅広く、詳細にとらえることができる

子どもを対象にした調査では、生活、学習、人間関係、価値観、自立の程度などを幅広く尋ねています。また、保護者を対象にした調査では、子どもへのかかわりや子育て・教育の意識などを尋ねています。この2つの調査から、子どもと保護者の日々の生活や学習の様子を浮かび上がらせるとともに、子どもと保護者の課題に迫ります。

### 〈調査イメージ〉



## 目次

「子どもの生活と学び」研究プロジェクトについて … 2	②勉強方法（学習方略） …… 12～13
調査概要 …… 3	③学校生活 …… 14～15
親子パネル調査から見てきたこと …… 4	④さまざまな経験 …… 16
調査設計・基本属性 …… 4～5	⑤親子の会話 …… 17
I 課題提起	⑥保護者のかかわり …… 18～19
①学習時間 …… 6	⑦自己認識 …… 20
②学習意欲（勉強の好き嫌い） …… 7	⑧将来目標 …… 21
③「勉強の好き嫌い」の変化 …… 8～9	III TOPICS
II 分析と考察	①文系・理系の自己認識 …… 22
①勉強する理由（学習動機づけ） …… 10～11	②政治や社会への意識 …… 23